

2021/12/20-2

(うつ病ドロロンバ読本「目」2)

「正体の見えないものに脅かされているのを感じてはいるが」

この様な抽象的な物言いをする、それが真実であっても皆さんを混乱に招くと事になる可能性がありますので、此処は敢えて具体的なものを引き合いに出して話を進めたいと思います。

脅かしているのは何か？或いは誰か？

分かり易く申せば皆さんの殺生与奪の権を持った利害関係者です。

更に分かり易く申せば上司、家族、近隣者（同僚、部下、仲間内）などの人々です。

本来味方である筈の此れ等の人々が敵に回っているか回る可能性がある不安です。

世の中では特に上司がその引き合いに出され勝ちですが、案外目が行かず怖いのが家族や近隣者（同僚、部下、仲間内）です。

全部ひっくるめて簡略化して申しますと「身内」或いはもっと局所的に申し上げますと「身内の目線」です。

本来温かくある筈の「身内の目線」がある日気が付いてみると「般若の目線」になっていたとしたら？

恐らく肝を潰すでしょう。信頼していた分その恐怖は計り知れません。

そして今多くの人々が薄々感じ始めているのが「身内の般若目線」なのではなかろうかと。なので、一時も気が抜けなくなってしまう様な気がしないでもありません。

会社においても、街を歩いていても、家の中においても周りは全て般若かスパイ。

その目線に囲まれて居る恐怖と不安。

結果「心が引きこもって仕舞い窮屈で息苦しい」

人と拘わる事は鬱陶しさがある反面、拘わらない事への不安と孤独。

その正体、実は「我が同朋、身内の目」

自分は是が日頃一時も離れる事なく付き纏っている「抑うつ状態」の元ではないかと推測しております。

又仮に同調圧力が働いていればいる程この「対象身内」の範囲が広がる事にもなりますので、結果「行住坐臥」それを感じ易くなり、益々時間軸空間軸にまたがって抑うつ状態になり易くなるとも言えるかもしれません。

同調圧力が「結束」ではなく「自縄自縛」方向に働くからでしょう。

自縄自縛を平たく申せば「疑心暗鬼」

そしてその「疑心暗鬼」の元が「自分はいつもこういう見方をしているから相手もきっとそうであるに違いない」という違った意味での「同調」即ち「近親同質相似思考」からなのはなかろうかと。

もう一度申し上げます。

抑うつ状態の元。

その正体は「目」です。

我が同朋、身内、そして周りの「目」です。

口ではなく「目は口ほどにものを言い」の「目」です。

口以上に相手の想像力を高めて言わない事をも聞こえさせてしまうその「目線」ではないでしょうか。

余談)

スマホの長時間ながら見も相互の「目線外しが目的」と考えると分かり易いかと存じます。

外見上一応言い訳の付く格好の「逃げ場」です。

そもそもあれだけ長時間連続で見ると中身があるとも思えません。

なので、スマホ長時間ながら見する人はほぼ周囲の目に起因する抑うつ状態下にあると考えるのが妥当かと存じます。